

会 議 録

1 会議名

第2回浦川原区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○協議（公開）

（1）令和4年度浦川原区地域活動支援事業の審査について

① 提案事業のプレゼンテーション・個別審査

② 全体審査

（2）自主的審査事項の検討について

○報告（公開）

（1）会長報告

・安塚区・浦川原区・大島区の中学校統合に向けた統合方式に関する意見交換会について

（2）委員報告

（3）市からの報告

・地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組等について

○その他（公開）

3 開催日時

令和4年5月21日（土）午前9時00分から午後4時15分まで

4 開催場所

浦川原コミュニティプラザ 市民活動室4・5

5 傍聴人の数

3人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：相澤誠一、赤川義男、池田幸博副会長、小野正広、春日清美、北澤誠、北澤正彦、五井野利一、杉田和久、藤田宏禎会長、宮川勇、村松進副会長

・事務局：浦川原区総合事務所佐藤所長、大橋次長、竹田次長、総務・地域振興グループ北澤班長、西條主任

8 発言の内容

【藤田会長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・出席者は12人。欠席者はなし。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しているので、会議が成立する旨を報告。
- ・会議録の確認：赤川義男委員に依頼。

【藤田会長】

それでは、「2 協議」に入る。「(1) 令和4年度浦川原区地域活動支援事業の審査について」、事務局から説明をお願いします。

【総務・地域振興グループ西條主任】

資料1をご覧ください。令和4年度は、5団体から6件の事業提案があり、補助希望額の合計は486万8,000円である。浦川原区の配分額540万円に対して、53万2,000円の残額となるが、追加募集は行わない。

次に審査日程について、この後、提案団体によるプレゼンテーションを実施する。プレゼンテーションの持ち時間は、1団体につき25分で、提案者による事業説明を10分、質疑応答の時間を15分とし、各事業のプレゼンテーションの後、委員による5分間の個別審査の時間を設ける。なお、10分間の事業説明及び15分間の質疑応答の時間は、それぞれ事務局で時間を計測し、合図をした時点で打ち切りとする。また、質疑応答の途中で15分を経過した場合は、その回答をもって終了とする。予定では、12時10分に6事業のプレゼンテーションと委員採点を終了し、事務局が採点票を回収後、集計作業に入る。その後、休憩をはさみ、地域協議会の報告事項を行い、午後2時25分から1時間の予定で全体審査を行い、本日中に採択事業を決定していただきたい。

審査方法については、前回も説明しているため、要点のみとさせていただきます。

事前に配付した仮の採点票は、審査の参考とするためにお送りしたものであり、本日はお手元に配付した採点票を使用してください。

それでは、採点票をご覧ください。「1 採点対象」欄には、提案事業名と提案団体名をあらかじめ印字している。「2 採点内容」の「(1) 基本審査」は、地域活動支援事業の目的に対する適合性の可否を判断いただき、「適合しない」とした場合は理由を記入してください。この場合、採点欄は全て0点となり、記入は不要となる。「(2) 地域自治区の採択方針」は、浦川原区の採択方針にある「優先して採択する事業」への適合性を記入してく

ださい。「(3) 共通審査基準」では、①公益性から⑤発展性までの各審査項目において、「採点欄」に1点から5点の整数を記入し、必要に応じて、個別採点の補助資料として、「地域活動支援事業共通審査基準の採点にあたっての考え方」をお使いください。最後に、「(4) その他特記事項」については、全体審査の中で協議が必要な意見があれば、記入をお願いします。

続いて、本日配付した「地域活動支援事業提案に係る担当課（関係課）所見一覧表」について説明させていただく。

担当課所見とは、事業の実施に伴い懸念される課題はないか、他の補助事業と重複して助成を受けていないかなどを確認するため、市の関係各課に所見を求めたものである。今年度は、補助金の重複払いがないと判断できる事業を除く3事業について所見を求めたところ、「課題なし」という回答であった。なお、担当課からの特記事項については、事業実施の際の参考としていただくため、その旨を提案団体に通知済みである。

最後に、全体審査については、集計結果の報告と合わせて説明させていただく。説明は以上である。

【藤田会長】

今ほどの説明について、質問や意見があればお願いします。

（質問・意見なし）

質問がないので、「①提案事業のプレゼンテーション・個別審査」に入る。

地域活動支援事業の提案者による事業説明及び質疑応答、各委員による個別審査を資料1のとおり進めていく。

始めに、「特定非営利活動法人保倉川太鼓」から「第13回浦川原和太鼓祭」の提案について説明をお願いします。簡単な自己紹介の後、提案内容について、10分以内で説明をしていただきたい。また、10分経過の合図で終了し、その後、15分間の質疑応答に移る。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

（自己紹介の後、提案書に沿って説明）

【藤田会長】

委員の皆さんから質問や意見があればお願いします。

【村松副会長】

今回も入場料無料とあり、毎回、入場料を徴収してはどうかとお話させていただいているが、今年度で地域活動支援事業が終了となるため、来年度以降どうされるのか心配である。また、収支計画に12万円の寄付金とあるが、500人で割れば、一人当たり240円ほど

にしかならない。今後の事業の開催等について、どのように考えているのか聞きたい。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

来年度以降の活動の見通しについては、今年度で地域活動支援事業が終了することを踏まえ、財源の確保をどうするかなど、我々も悩んでいるところである。

これまでと同様に寄付金を募ることは考えているが、どうしても寄付金の収入だけで賄える規模の事業ではないと認識しており、市に新たな補助金の提案をしていく中で、財源を確保していくことを考えていきたいと思っている。

例えば、日本太鼓財団やほかの財団が提供している補助金もあるが、倍率が高く、思うような補助金の額ではない場合があり、可能性としてはあまり期待できない。

15年という長い月日を経て、この事業が定着した背景には、市の補助金を活用させていただいた部分もある。したがって、「このイベントは大事な事業である」ということを市に働き掛けながら、来年度の予算に計上していただけるようにしていきたいと思っている。

【村松副会長】

浦川原区にとって大切なイベントであり、今後も継続していただきたいため、やはり、入場料をいただくことも考えながら活動を続けていただきたいと思う。

【春日委員】

保倉川太鼓がメインとなって、他にゲストが出演されるということで、今回はおもてなし武将隊などが来られるようだが、他の団体等は来ないのか。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

開催当初は、市内で活躍している団体を招致して開催したこともある。各団体1回は出演していただいております、ほぼ出そろった感じがある。また、出演を依頼しても、活動が低迷しているといった理由で、断られる場合もある。そういったことをこの数年間繰り返してきた中で、現在の保倉川太鼓と特別ゲストという形態が、ここ数年のスタンダードとなっている。

おもてなし武将隊については、3年前の第11回から出演していただいております、上越市内では太鼓のイベントがないことから、おもてなし武将隊から出演していただくことで、武将隊のファンの方からも目を向けてもらいたいといった思いもあり、出演をお願いしている。

【春日委員】

「現在、市内には太鼓の大きなイベントがない」というお話があったが、今後は、浦川原を起点とした大きな太鼓のイベントとして、市内の団体にも是非参加していただきたいと思っている。その際は、参加費として運営費を負担していただくことも検討していただきたい。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

検討させていただく。

【池田副会長】

先ほど、「今年度で地域活動支援事業が終了するので、今後どうしていくか」という話の中で、「市に予算計上してもらえるようにしていきたい」とお話しされたが、過去に、市に共催申請して断られた経緯があり、それと矛盾するのではないかと思うが、いかがか。

また、令和3年度活動計算書を見ると、460万円以上の繰越金があり、非常に潤沢であるが、これは、和太鼓自体が非常に高価なものであり、破損時の修繕費用として考えているのか、他に使用目的があるのか。この大きな繰越金について、お聞かせいただきたい。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

「共催を断られたのに、補助金の予算措置をお願いするとは、矛盾しているのではないか」というご指摘について、事務局の見解もいただければ助かる。共催とは、市と協働で推進していく事業であり、浦川原和太鼓祭は、これに該当しないという市の回答であったと認識している。また、補助金とは、公益性を認めて事業に対して補助する、後援するといった考えのものではないかと思っている。この考え方で、一定の整理ができており、協働事業には認められないものの、市が応援してくれる事業であれば、後援を認めていただき、補助金を付けてもらえる可能性があると思っている。

活動計算書に記載の繰越金については、460万円の手持ち現金があるわけではなく、太鼓の機材や建物を金額換算した場合の総資産の金額であるということをご理解いただきたい。なお、保倉川太鼓の手持ち現金は、貸借対照表に記載されている、現金預金の49万6,540円である。

【北澤正彦委員】

昨年度の地域活動支援事業報告会で、「メンバーに子どもが何人か入っていて、来年には演奏のメンバーに入れる」というお話があったと記憶しており、期待しているところであるが、10月に実施する和太鼓祭には間に合いそうなのかどうかお聞きしたい。

また、地域協議会委員の皆さんは、この地域活動支援事業を活用している団体を気遣ってのことと思うが、「イベントを継続するために入場料を徴収してはどうか」という話が毎回出てくる。しかし、私は、入場料を取ってイベントが成立する団体は、浦川原区の中にはないと正直思っている。私としては、入場料を取らずに、あくまでもイベントは、地域の皆さんに喜んでもらい、元気になってもらいたいという思いが第一にあり、団体の皆さんもそういう思いで、イベントを考えていただいていると思っている。実際に、たくさんの元気をも

らえていると思っていて、昨年は600人もの入場者があり、皆さん心待ちにしていたと思う。入場料は別にして、是非、この浦川原のために頑張っていたきたい。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

現在、子どものメンバーは5人で、浦川原区の子どものが4人、区外から1人となっている。年齢別でみると、中学1年生が1人、小学5年生が4人である。区外の子どもは、中学1年生の女の子である。指導者とマンツーマンに近い状況で練習しているが、10月のイベントに間に合うかどうか、現段階では判断できない状況である

【藤田会長】

時間になったので、第13回浦川原和太鼓祭については、これで終了とさせていただく。審査の結果、補助金の減額や事業内容を変更して採択する場合がある。補助金を減額されても、この事業を実施するお気持ちはあるか。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

実施していきたいと思っている。

【藤田会長】

地域協議会として審査の参考とさせていただく。また、引き続き、地域の課題に取り組んでいただくことをご期待申し上げます。

(特定非営利活動法人保倉川太鼓退席)

【藤田会長】

これより、委員の皆さんによる5分間の個別審査に入る。

(各委員による個別審査)

【総務・地域振興グループ北澤班長】

事務局から、共催について、補足説明をさせていただく。

うらがわらまつりと比較していただくと分かりやすいと思うが、うらがわらまつりは区内の多くの団体からなる実行委員会が事業を実施しており、市は、その一員となっている。つまり、うらがわらまつりは、区全体の大きな動きであり、実行委員会と市が地域活性化のために協働で行うということで、共催となっている。

一方、浦川原和太鼓祭は、特定非営利活動法人保倉川太鼓が単独でイベントを企画運営しているもので、区内や市としての大きな動きではないとの考えから後援という考えである。

【大橋次長】

個別審査の5分が経過したため終了とする。

【藤田会長】

続いて、「大字虫川自治会」から「虫川の観光資源を活用した観光PR事業」の提案について説明をお願いします。

【大字虫川自治会】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

委員の皆さんから質問や意見があればお願いします。

【北澤正彦委員】

鳥瞰図かんにもあるように、虫川城跡は市の指定文化財になっているようだが、市の文化財であれば、標柱などの管理に関して、市から金銭面での支援等があるのではないか。

【大字虫川自治会】

正直、期待は薄いというのが事実である。

案内標柱は、現在高さが地面から30センチメートルくらいしかない。昨年の雪で傾いてしまったため、町内会で直そうとしたところ、根元が腐っていることが分かり、腐っている部分を切って埋め直している。その際、教育委員会、総合事務所の教育・文化グループにお願いして、横の柱や支えるための板などの材料を購入していただいた。これは、今回の地域活動支援事業とは別にお願ひしたものである。今回の提案は、これを元の高さに戻す工事を実施したいというものである。

【北澤正彦委員】

先ほど、「案内板は個人の方が作成し設置されたもので、その方が亡くなられて維持管理が難しくなった」とお聞きした。その後、虫川自治会が虫川城跡の維持管理をしてこられた中で、これまで、教育委員会へのアプローチなどはされたのか。どうにもならないということで、地域活動支援事業を活用しようと思ったのか。

【大字虫川自治会】

私が聞いた話の中では、これまで、ある程度教育委員会にお願いをしてきたが、なかなか前進しなかった経緯もあり、今回提案させていただいた。

【北澤正彦委員】

承知した。

【池田副会長】

提案書を見ると、今までの木製支柱が腐食したため、腐食しないアルミの支柱を立てて、そこにアルミ複層版の案内標柱を設置するというので良いか。

【大字虫川自治会】

そうである。A3サイズの小さい案内板ではあるが、見学される方には、ある程度理解していただけたらと思っている。例えば、上半分には「馬場跡」という名称を表記し、その下に簡単な説明文を記載する予定である。また、冬になったら取り外して保管し、春に再度設置したいと考えている。

【藤田会長】

他にないか。私は、今回提案していただいて良かったと感じている。写真でも分かるように、朽ちた状態になっていて、新たに設置していただければ、文化財の価値も上がると思っている。ただ、やはり冬期間の管理は大変だと思うので、十分ご配慮いただきたい。

提案書の実施スケジュールの中で、6月から9月に標柱の製作、設置とあるが、収支計画等には設置費が記載されていないようである。この経費については、どうなっているのか。

【大字虫川自治会】

見積書を添付しており、そこには設置費一式も含まれている。

【藤田会長】

了解した。設置に関しては、町内会が直接実施することではないということか。

【大字虫川自治会】

そうである。設置は業者をお願いしていて、設置場所については、我々が立ち会って指示する予定である。また、標柱の設置場所には草が生い茂っているため、皆さんから協力をいただいて整備し、歩いていけるようにしたいと考えている。

【藤田会長】

質問がなければ、最後に確認させていただきたい。

審議の結果、補助金の減額や事業内容を変更して採択する場合がある。補助金が減額されたとしても、この事業を実施するお気持ちはあるか。

【大字虫川自治会】

たとえ減額されても、今後のために実施していきたいと考えている。

【藤田会長】

地域協議会として、審議の参考とさせていただく。また、地域課題の解決にも取り組んでいただきたい。

(大字虫川自治会退席)

【藤田会長】

これより委員の皆さんによる5分間の個別審査に入る。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

続いて、「うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会」から「うらがわら雪あかりフェスタ」の提案について説明をお願いします。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

委員の皆さんから質問や意見があればお願いします。

【相澤委員】

今まで、区外からお客さんをお呼べるイベントがなかなかなく、この雪あかりフェスタがメインのイベントとなって、少しずつ輪が広がり始めたところに、コロナという打撃があり、また、高齢化も進んでいるところである。まだまだ輪を広げることができるようであれば、実施していただきたいという思いがある。

もう一点、組織体制について、安塚区、大島区を含めた大浦安での組織を作ってください、各区と連携できるようなものがあれば、浦川原の入口から安塚区、大島区までつながった素晴らしいイベントになるのではないかと考える。ただ、それにはお金も必要になってくると思うので、区を超えて連携できる組織づくりをしていただきたいと思う。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

それぞれの区で実行委員会を立ち上げて、独自でイベントを開催しているところであるが、区と区の連携に関しては、言われるように、今後連携が必要になってくる時代がすぐそこまで来ていると感じている。商工会の広域連携の話や大浦安の中学校が統合するといった話もあり、近いうちにこのイベントに関しても連携を進めていく必要があるのではないかと考えている。区外からたくさんの人に来ていただいているが、実施している側と浦川原の人が楽しめるイベントにしていけないと長続きしないと思っている。もっと区内で盛り上がるようにしていきたい。自分で作ると見に行きたくなるもので、高齢化している集落にボランティアとして入り、他の集落からも手伝っていただいて、盛り上げていこうと考えている。

【相澤委員】

是非、頑張ってください。もう一点、茶屋が少なく寂しいといった意見もあり、お客さんも待ち望んでいると思うので、他の区にも提案していただくほか、浦川原区から先んじて増やせるように頑張ってくださいと思う。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

実行委員会の場で、ご意見があったことを伝え、1軒でも2軒でも増やしていけるように考えていきたい。

【村松副会長】

消耗品の購入で、昨年度、着火用ライターについて質問をさせていただき、「どのくらい使用できるのか」といった質問に対して、「2・3シーズンは使える」といった回答であった。

今年度で地域活動支援事業が終了する中、おでかけマップの印刷費とライター購入の費用で、約8万円となっている。来年度以降、この経費をどのように考えているのか、お聞かせいただきたい。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

「2・3シーズン」とお答えしたのは、スポーツクラブが2,000本のろうそくの火を点けるために、自前の着火ライターを30本ほど用意しており、この他に、前回の地域活動支援事業で購入させていただいた20本、合計50本のライターを使用した時に、2・3年くらいもつだろうということである。

今回提案したのは、昨年アンケートを取り、ライターの必要数を算出した際に、予算の関係で、十分な数を揃^{そろ}えることができなかつたため、購入させていただくこととした。ライターの本数が多くなれば、着火回数も減って、5・6シーズン使用できるのではないかと考えている。

残念ながら、地域活動支援事業が今年度で終了する話はお聞きしており、今後は、市に予算要求をしていかなければならないと考えている。また、企業等から寄付を募ることも、一つの手立てなのではないかと思う。

【宮川委員】

今回、仮設トイレが予算化されていないようだが、どうするのか。また、以前の提案で、「カラーコップ200個ほどを試験的に使用する」といったお話もあったと思うが、その後、継続して使用する予定はあるのか。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

仮設トイレについては、ゆあみが閉鎖され、トイレが利用できないことから設置していたが、利用が少なかったため、前回は月影の郷に設置した。ただ、月影の郷でも仮設トイレの利用があまりなかったため、今回から仮設トイレは設置しないこととした。

カラーコップについては、前回、申込みのあった約1割にお配りした。火の点いたカラー

コップは確かにきれいだが、設置箇所をきれいに平らにしないと、コップが滑って溶けてしまうという難点があり、実行委員会としては、あまり良い評価を得られなかった。また、燃えかすが残ってしまって、イベント後の処理が大変であった。このため、今回の提案には入っていない。ただ、個人的に、50個ほど使用したいと考えている。

【春日委員】

各町内会に声掛けしている中で、なかなか参加していただけない町内会もあるという話があった。私の体験談として、コロナの関係で、飯室町内会の有志で参加することができなかったことから、各家庭にキャンドルを配った結果、それぞれの家庭で楽しんでいる様子が非常に良かった。まず、自分たちが楽しむ体験をすることから始めて、その後、地域全体で参加してもらおうというように、段階を踏んで実施していくことも一つの方法なのではないかと思う。雪を楽しむ体験を各地域で実施することが良いのではないか。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

雪を楽しむというのは、正にそのとおりだと思う。たくさん雪は気持ちが落ち込むものであるが、これを利用することが、このイベントの魅力の一つであると思う。県外から来たお客さんから、「こうやって雪を楽しむことは良いことだ。」という声をいただいたこともあり、何とか頑張っていきたいと思っている。

飯室町内会の取組については、私も承知していて、この他に、顕聖寺町内会も何軒か実施していた。ただ、各戸にキャンドルを配布するのは、町内会長の負担が非常に大きくなり、同意を得られるか心配な部分もあるので、配布の方法を考えながら、少しでも輪が広がるようにしていきたい。先ほどもお話があったが、区内で輪が広がって、大きなイベントとして育てていくことができれば良いと思っている。

【藤田会長】

時間となったため、ここで終了する。

来年度から地域活動支援事業が終了することとなっており、今後についてのお考えもあるようなので、この事業を継続していくための対策を、主催者である皆さんからお考えいただくこともお願いしたい。地域協議会としても、力になれるか考えていきたいと思っているが、個人的には、市が責任を持つべきだと思っている、配慮いただきたいと考えている。

最後に、補助金の減額や事業内容を変更して採択する必要があるが、補助金が減額されたとしても、この事業を実施するお気持ちはあるか。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

頑張っって進めていきたい。

【藤田会長】

地域協議会として審査の参考とさせていただく。

(うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会退席)

【藤田会長】

これより、委員の皆さんによる5分間の個別審査に入る。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

続いて、「特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原」から「広報紙『夢だより』周知推進事業」について説明をお願いします。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

委員の皆さんから質問や意見があればお願いします。

【小野委員】

今まで、この「夢だより」は色紙に印刷されていたと思うが、これが不評で、カラー印刷にするとということか。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

不評だったという声は把握していない。

【小野委員】

もう一点、NPO夢あふれるまち浦川原で、令和2年度に印刷機を購入されている。それを活用することはできないのか。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

インクが非常に高価であり、まとめて業者に発注した方が、格安になるということである。

【北澤正彦委員】

印刷機を購入する際、提案書に「月に一度発行している『夢だより』は全戸配布のため、1,000枚単位で印刷するので、印刷機は欠かせない」と「欠かせない」とまで言われて印刷機を購入していながら、やはりカラー印刷が良いから外注するということは、少し理解に苦しむところである。理由をきちんと説明していただきたい。

また、小野委員が言われたが、色紙を使った白黒印刷で何か不具合があったのかどうか。たよりを見た方から「見づらい」といった意見が多く寄せられたのかどうか。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

一昨年、印刷機を購入し使用しているところであるが、これは地域の皆さんや町内会などから利用していただくための印刷機であり、大量印刷となると、非常にコストが高くなる。それよりも専門の印刷業者へ発注することにより、格安で印刷できるという判断である。今までの色紙での印刷がだめだといった批判的な意見はお聞きしていないが、カラー印刷にすることで見やすくなり、少しでも多くの皆さんから「夢だより」を読んでいただき、NPOの情報を提供していきたいということをご理解いただきたい。

【藤田会長】

実務的な部分において、立場は違うが、池田副会長から少し説明していただく。

【池田副会長】

違った立場で発言することは非常に申し訳ないが、先ほどのプレゼンにおいて、NPO会員の加入率について、浦川原区全体の60.3パーセントほどしかないという説明があった。町内会単位で、100パーセント加入していただいている町内会もあるが、大きな町内会については、あまり加入が進んでいないのが現状である。

また、この広報紙については、他の区の住民組織にも配付されていて、私も他の区の広報紙を拝見しているが、上質紙を使用し、A3サイズでカラー印刷しているところもあり、広報紙発行に非常に力を入れていることが分かる。ご質問にあった「白黒印刷に対する否定的な意見」は、今までなかったと認識している。ただ、このカラー印刷にしてからは、「きれい」「見やすくて良い」といった意見を多くお聞きしているところである。

私たちは、「浦川原にNPO夢あり」と言われるくらいの団体になりたいという気概を持って取り組んでいて、その一環で、今回の提案に至ったところである。

【北澤正彦委員】

お気持ちはよく分かったが、前回、NPOが印刷機を購入する際に、住民サービスの前に基本的には「夢だより」を発行することが一番大きな理由だったと思っている。それなのに、1・2年でこうなる事態を把握できなかったこと自体が、事業としておかしいのではないか。もちろん、住民へのサービスは実施していただいているところであるが、この「夢だより」の発行のために印刷機を購入しているわけであり、これを十分に活用し、NPOのPRもした上で、それでも加入が低迷しているということであれば、この提案をしても良いと思うが、2年ほどでの今回の提案はいかがなものか。

【藤田会長】

時間となったため、これについては、全体会審査の中で、再度ご発言いただきたい。

最後に、補助金の減額や事業内容を変更して採択する場合があるが、補助金が減額されたとしても、この事業を実施するお気持ちはあるか。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

減額された場合は、隔月にするか、たよりの内容によって白黒印刷にするなどの対応をとりたいと考える。

【藤田会長】

これより、委員の皆さんによる5分間の個別審査に入る。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

引き続き、「特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原」から「『和山・観音堂』トレッキングコース整備促進事業」について説明をお願いします。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

(提案書に沿って説明)

【藤田会長】

委員の皆さんから質問や意見があればお願いします。

【小野委員】

この丸太を使った階段の補修は、地元の方が実施するのか、NPO夢あふれるまち浦川原で行うのか。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

私たちNPOの前に管理していた熊沢町内会の方々が設置したものもあるが、今回は、我々NPO会員が作業する予定である。手伝っていただける方がいらっしゃれば、皆さんからも是非お願いしたい。

【小野委員】

場所的に素人が作業できるような場所なのか疑問がある。今後、時間の経過とともに木製の丸太は朽ちていくと思われるので、専門の業者等をお願いした方が、仕事も早く、しっかりしたものができるとは思っている。

また、今回、地域活動支援事業に提案されているが、文化財ということであれば、保護の一環で、市から補助してもらおう手立てを考えても良いのではないかと思います。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

急斜面に設置する丸太は、耐久性のあるプラスチック製の擬木であり、場所によっては、既に設置しているところもある。設置の際の技術的な部分については、さほど難しいもので

はない。専門業者に依頼すればコストがかかるため、我々NPOや地元の方で1時間当たり890円の賃金で実施させていただく。

【小野委員】

安価で実施できることは良いことだと思うが、私の住んでいる山本町内会にも遊歩道があり、プラスチックの擬木が設置されているが、草刈りの際に草刈り機の先端が当たって破損させてしまうことがあるので、管理に気を遣う部分がある。破損を避けるため、除草剤を散布しているが、除草剤が土壌を痛めるなど、思わぬところに弊害が出る場合がある。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

リサイクルされたプラスチックであり、固いものとは少し違うものだと思うが、今言われたように除草剤の散布など、管理を工夫してやっていきたいと考える。

【藤田会長】

他にないか。

(会場内から「なし」の声)

審議の結果、減額や事業内容を変更して採択することがあるが、減額等された場合でも、事業を実施するお気持ちはあるか、確認させていただきたい。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

100か所ほど設置を予定しているが、減額となれば、危険箇所を優先し、設置本数を減らすなどして、限られた予算の中で進めていきたい。

(特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原退席)

【藤田会長】

これより、委員の皆さんによる5分間の個別審査に入る。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

次に、「月影の郷運営委員会」から「宿泊体験交流施設月影の郷イベント事業」について説明をお願いします。

【月影の郷運営委員会】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

委員の皆さんから質問や意見があればお願いします。

【五井野委員】

実施主体は「月影の郷運営委員会」ということだが、見積書の宛先がクラフトスクエア実

行委員会、クラフトスクエア、個人名など複数あり、これ自体は問題ないと思うが、月影の郷運営委員会とクラフトスクエアとの関係性をお聞かせいただきたい。例えば、月影の郷運営委員会で実行委員会を設置したのか、他団体や個人の思いがあって立ち上げられたのか。

【月影の郷運営委員会】

実行委員会は立ち上げていない。月影の郷運営委員会が主催で、この事業に賛同いただける個人や団体から協力していただき、まとめている状況である。実行委員会を立ち上げて取り組んでいくことが一般的だと思うが、今回は自主的に賛同する人で運営していく。

【五井野委員】

一応了解した。

先ほどの説明では、「便利な街中にはない、自然に囲まれた環境豊かな学校的空間」と言われたが、正に月影の郷を表していると思う。そこに人工的な遊具をたくさん集めることによって、自然環境豊かな場所を体験することにどのようにつながっていくのか。さんばいし投げや竹細工など、従来月影の郷で実施していたものは、月影の郷ならではの体験だと思うが、バブルサッカーやゾーブボール、フットダーツなど、人工的遊具を月影の郷に集める必要性を教えてください。

【月影の郷運営委員会】

皆さん、私も含めてこの地域に住んでいて、当時は自然の中で木を切ったりして、そこにあるもので遊んできた。ところが、時代の変化とともに今の子どもたちは、与えてあげないとなかなかできない部分がある。また、遊具に関しては、全国的にいろいろな種類のものでリリースされ、活用されている現状がある。

一方で、月影の郷では、自然の稲わらや竹、石を使って子どもたちにいろいろな体験してもらっているが、新たな目線で、芝生広場や学校空間、教室や体育館など、公共空間を活用することに主眼を置いてきたところである。

確かに、自然豊かなところにプラスチック製品を持ってくることに対して、抵抗感はあった。しかし、目線を変えた遊びや学びで体を使うことにより、子どもたちの健全な育成につながりたいという思いから、この地域にはない、都会へ行かないと遊べないような遊具を持ってくることによって、里山でも体験できると感じてもらうことを狙いとしている。

【小野委員】

お願いになると思うが、浦川原には廃校となった小学校が、月影だけではなく、末広と中保倉にもある。この2校については、再利用の道筋が見えておらず、今後どうなるかわからない中で、建物自体が荒れて朽ちてきている状況がある。

これは市の責任になるのかもしれないが、状況を見守っている我々からすれば、すごく寂しい思いがある。月影の郷については、全国的にも有名になって、大きなイベントも多く開催されている中で、ご苦勞をかける形でのお願いとなるが、現在、廃校となっている末広や中保倉小学校で、何かイベント的なことを実施していただくことができれば、廃校利用の道筋が少しでも見えてくるのではないかと、以前から考えていた。そういったことが可能なかどうか、考えていただけたらありがたいと思う。

【月影の郷運営委員会】

私は月影の郷の支配人として13年目に入った。全国的な廃校活用の事例として、北陸ブロックの廃校活用セミナーを月影の郷で開催したこともあった。今年も7月6日に福井で開催されることとなっていて、案内が来ている。

廃校活用の事例について学んできた中で、末広、中保倉についても、例えば、末広小学校はドローンを飛ばすエリアにすれば良いのではないかという考えがある。月影の郷では、市内の法人が、ドローンの講習を月に8～12回開催している。さらに、ドローンで遊べるエリアを求めていることもあり、ドローンを飛ばせる区域として、公共財産を有効利用できるのではないかと期待しているところである。ただ取り壊すだけではなく、地元の方々も、スペースを活用するための提案を市へ出すことが、必要なのではないかと考えている。

皆さんも末広小学校、中保倉小学校という歴史ある学校が朽ちていく中で、取り壊すことを考えるのではなく、有効活用する形で、お考えいただけたら、地域の公共財産として大切にされると考える。

【春日委員】

この事業提案を見たときに、すごくわくわくした気持ちになった。ただ、やはり気になるのは、自然豊かな場所で、いろいろなことを体験するという点において、内容が今一つしっくりこない。例えば、妙高青少年自然の家では自然を利用したプログラムが多くあるが、今回の提案では、そういったものがあまり見られないのではないかと感じている。地元の方からも意見をお聞きして、例えば、芝生での尻滑りなど、自然を利用したメニューを考えた方が良いのではないかと思う。私はジュニア団体と関わっており、団体の方たちは、常に何かしらのイベントに参加していることから、スタッフ側として、そういった方々からも意見等を聞いてはどうか。

【月影の郷運営委員会】

その辺も議論している。先ほど申し上げたように、月影の郷では、学校の総合学習や田舎体験等で自然の物、稲わらや竹、石などを使った体験イベントを実施しており、私自身が今

までと同じような体験を提供することは問題なくできるが、今回は、私以外から学べる遊びを提供したいという思いがある。それにはお金がたくさんかかってしまうことになるが、今回この事業に賛同していただいた方々からは、「負担があっても協力する」と言っていたこともあり、「浦川原区に月影の郷あり」といった気持ちを持って、「こんな山の中で、こんな都会的な遊び、体験ができる」ということで実施したい。今後については、皆さんから指摘された部分も考えて、継続して実施できるように考えていきたい。先日、新潟総合テレビの取材があり、さんばいし投げを採り上げてもらった。こういったマスコミが入ることによって、広くPRできるので、子どもたちを対象にしたいろいろな遊び、学びにおいて、人工的に作られたものではなく、自分たちの手で作ったさんばいし投げなどをもっと広めていきたいと思っている。

【杉田委員】

事業費330万円の約半分が遊具代であり、非常に高額である。また、自主財源として参加費、協賛金等で75万円ということであるが、費用対効果が非常に悪いのではないかと感じている。その点をどう思われているのか。

【藤田会長】

持ち時間が経過したため、この件については、全体審査の中でお話ししたい。

最後に、審査の結果、補助金の減額や事業内容を変更して採択する必要があるが、補助金を減額されても、この事業を実施するお気持ちはあるか。

【月影の郷運営委員会】

先ほども申し上げたとおり、「浦川原区に月影の郷あり」といった意気込みがあり、減額されても実施するつもりである。

(月影の郷運営委員会退席)

【藤田会長】

これより、委員の皆さんによる5分間の個別審査に入る。

(各委員による個別審査)

【藤田会頭】

以上で5団体、6事業のプレゼンテーションが終了した。ここで、一時休会とし、事務局による採点結果の集計作業に入る。委員の皆さんは、事務局に採点票を提出いただきたい。

再開は午後1時とする。事務局から今後のスケジュールについて、説明をお願いします。

【総務・地域振興グループ西條主任】

午後1時から再開ということで、現在、協議の途中であるが、「3 報告事項」から再開

させていただく。

(休会)

【藤田会長】

それでは、会議を再開する。

「3 報告」に入る。「(1) 会長報告」として、5月19日木曜日、午後6時30分から開催された、「安塚区・浦川原区・大島区の中学校統合に向けた統合方式に関する意見交換会について」、北澤正彦委員に出席していただいたので、報告をお願いします。

【北澤正彦委員】

先ほど皆さんにお配りした資料のとおり、「安塚区・浦川原区・大島区の中学校統合に向けた統合方式の意見交換会」に出席したので報告する。出席者は、3区の小学校、中学校のPTAと保育園の保護者代表、各区の地域協議会、町内会長連絡協議会、学校運営協議会の代表で、計19人であった。このほか、出席団体からそれぞれ1人まで傍聴することができ、教育委員会からは、教育総務課の瀧本課長を始め3人がお見えになった。

まず、教育委員会から、PTA、保護者、地域住民への説明を経て、統合に向けて一定程度の合意が得られたことと、今後の流れやスケジュールについて説明があった。

最短で令和6年4月の統合ということで、それまでの大まかな流れが教育委員会から示された上で、当日の意見交換会の趣旨である、編入統合か新設統合かという統合方式について、出席者一人一人から意見が述べられた。統合方式と今後のスケジュールについては、資料をご覧ください。

各団体の意見としては、安塚区では、小・中学校のPTAと地域協議会代表の3人が編入統合で、他の4人は新設統合という意見であった。大島区では、保育園の保護者代表ら2人が編入統合で、ほかの5人は新設統合という意見であった。浦川原区では、全ての代表の方が安塚区、大島区の方に配慮されていたように思うが、小学校PTA、保育園の保護者代表の2人が新設、私を含め4人は「どちらか」といった明言は避けた形となった。各代表の皆さんは、それぞれの団体の総意ではないということで、あくまで、代表者個人の意見の発表であった。また、安塚中学校PTAの代表からは、「保護者を対象に統合に関するアンケートを実施して、保護者の意思決定を諮りたい」という旨を教育委員会に求めていた。

今回の意見交換会は、あくまで意見の吸い上げであって、各代表が持ち帰り、今後、それぞれの団体で意見をまとめた上で、6月末にもう一度集まっていたいただき、一定の方向性を出したいという教育委員会の説明であった。以上が当日の流れである。

私見になるが、実際に統合に向けて動き出しており、新設か編入かに関わらず、小学校や

中学校のPTAや保育園の保護者の皆さんからは、スクールバス、制服、体操着などの具体的な質問も出ていた。これに関しては、教育委員会から細かな話がない状況であった。また、安塚区の学校運営委協議会の代表の方から、「安塚区の地域住民説明会には2人しか出席者がいなかった」ということもあり、「何をもって統合に合意済と判断し、統合に至るのか」といった質問があった。これについても、教育委員会は、きちんと説明していなかったと感じている。

これまで、浦川原区や安塚区、大島区も含め、小学校の統廃合の際に、多くの住民の皆さん、団体の皆さんが苦勞されたという経緯を皆さんは見てきているため、中には、「編入統合でも構わない」という意見もあり、「少しでも手間が減れば、時間的にも早く統合できるのではないか」と言われる方もいた。私は、新設、編入のいずれにしても、理解を得られてからの話であり、時間的には余り変わらないのではないかと感じている。

次回、6月末に開催される意見交換会において、浦川原区地域協議会としての総意をお伝えしたいと考えている。おそらく、意見交換会は、地域協議会の前に開催されるのではないかとと思われるため、会長にお願いであるが、本日、浦川原区地域協議会としての方向性を協議してまとめていただきたい。

【藤田会長】

要点としては、編入統合か新設統合かということになると思う。そして、早めに地域協議会としての結論を出したいということである。編入統合と新設統合について、解釈としては学校名の違いだけになるのか、他にも何か変更される部分はあるのか。

【北澤正彦委員】

新設統合の場合は、新たな学校名となる。編入統合は、現在の浦川原中学校の運営の中に編入されることになり、大きな違いがある。新設統合は、校歌や校章など、全てを新たに作成することとなり、それなりの時間がかかってしまうことが考えられる。また、広くいろいろな方々の力が必要となってくる。

【藤田会長】

短時間で結論が出るか分からないが、皆さんの意見をお聞かせいただき、浦川原区地域協議会としての方向性が定まれば良いと思う。

【相澤委員】

浦川原区としては微妙な立場であり、北澤正彦委員も非常に苦慮したのではないかと思う。浦川原区地域協議会としては、1日でも早く統合されることが望ましいと考える。統合が遅れば遅れるほど地域にとっても致命的な状況となるため、できるだけ早くという意味から

編入統合ということで、結論を出していただきたいと思っている。

【北澤誠委員】

私は、新設統合が良いと思っている。先日の意見交換会に、傍聴人として参加させていただいたが、編入統合の場合は現在の校歌のままであり、歌詞にはその地域や土地の名前等も入っていることが多いことから、新設統合として新たにスタートを切るのが良いと思う。

【村松副会長】

私も、傍聴人として参加させていただいたが、浦川原区の立場としては、相澤委員の言われたように、早く統合するとなれば編入統合が良いと思うが、区によっては、温度差があると感じている。したがって、浦川原区地域協議会としては、どちらが良いのか難しいところではあるが、編入統合を主な意見としながら、安塚区、大島区の意見を尊重するといったスタンスが良いのではないか。

浦川原区の小学校統合の際は、新設統合としたことで、校章や校歌などを新たに作成することとなり、多くのお金、労力が必要となった経緯があった。そういった経緯を説明しながら、前へ進んでいっていただきたいと考える。

【相澤委員】

北澤正彦委員にお聴きするが、意見交換会での雰囲気など、先ほどの説明では半々の意見のように感じられたが、会場の雰囲気としては、浦川原の方々は、浦川原の名前が消えることに関してナーバスになっていたか。

【北澤正彦委員】

正直に申し上げて、新設・編入が半々ではなかった。割合としては7対3で、新設統合が多かったように思う。ただ、新設でも編入でも、スケジュールとしては余り変わらないのではないかと知っている。ただ、内容的には、新設統合の場合、様々な問題をいろいろな方々が関わって解決していかなければならないことが、編入統合に比べて多いということである。トータルでのタイムスケジュールに大きな違いが出ることはないと思われる。

また、意見交換会の場で、「浦川原区地域協議会では、学校に関わることは非常に重要であると認識し、絶えず注視しながら勉強会も含めて実施してきた経緯があることから、編入、新設にこだわらず、早い時期に統合に至ることが一番良い」という話をさせていただいた。

【相澤委員】

了解した。先ほどの私の意見は撤回させていただきたい。やはり、各区の感情や思いが残っているということであれば、新設統合の方向で進めた方が良いのではないかと考える。

そして、もう一つ気になるのは、小学校の統合である。これについても、住民感情や各区

の間で対立感情といったものがあると感じている。この小学校の問題を解消するためにも、中学校は最初から新設統合とし、難題を早く解決するようにした方が良いと思う。

【藤田会長】

北澤正彦委員にお聞きしたいのだが、安塚区の雰囲気としてはどうなのか。それと、「教育委員会としての見解がなかった」と言われたが、その辺の雰囲気はどうだったのか。

【北澤正彦委員】

これは、お一人の方の意見であるが、安塚区の住民説明会が新聞報道のあった翌日だったこともあり、「安塚区の合意は、教育委員会が何の根拠を基に決めたのか」ということを言われていたが、私は、他の安塚区のPTAや保護者の方々が、統合を待ち望んでいるという雰囲気を感じた。このことは、最短で令和6年4月の統合に向けて進んでいくという考えの中で、体操着や制服、スクールバス等の具体的な質問を、安塚区の中学校のPTAの代表がしているところを見て、待ち望んでいるのではないかと感じたものである。

地域協議会委員として五井野委員も傍聴されていたので、ご意見を伺いたい。

【五井野委員】

意見交換会については、今日の新潟日報でも報じられていたが、日報には新設に偏った意見しか載っていなかった。意見交換会終了後に北澤正彦委員と話をしたが、安塚区、大島区の保護者の方々から「編入が良い」という意見が出るとは思わなかった。安塚区と大島区が新設と言え、浦川原区も新設でということになると思うが、子どものことを考えた場合、早く決めて進んだ方が良いと思う。いずれにせよ、令和6年4月の統合が最短で間違いなく、編入、新設にこだわるあまり結論が先延ばしになってしまうよりも、相澤委員の言われるように、新設統合の方向で行くと決めてしまえば、進んでいくと思われる。

編入と言っていた保護者の方は、少し勘違いをされていたようである。その方は、「新設の場合、体操着などをすぐに買い替えなければならないが、編入であれば移行期間がある」と思われていたようで、その方が「金銭的な負担が少ない」と言われていた。これについては、「新設の場合でも、安塚中学校、浦川原中学校、大島中学校の体操着をそのまま着ることができ、買い替えるタイミングまで着ていて良い」と教育委員会から説明があった。浦川原小学校の統合の際にも、私の子どもはそのように過ごしていたこともあり、それによって、いじめや偏見等は全くなかった。

私としては、初回の会議で新設に決まると思っていたので、意外な雰囲気であった。地域協議会のスタンスとしては、どちらでも良いということではなく、子どもたちのことを第一に考えて決めなければならないことは、早く決めていくこととして、私も相澤委員の言われ

るように新設統合の方が良いと考える。

【藤田会長】

浦川原小学校統合の際は、私も地域協議会の会長という立場であったこともあり、皆さんの意見を踏まえ、私の考えを少し話をさせていただきたい。私も新設統合で良いと思う。理由としては、現在、大浦安の行政の一部が浦川原区へ統合されているということが一つ。それと、今後、人口が少なくなってきたときに、その機能がどれだけ果たされて、より強力になっていくのかということ、行政に考えていただくことが必要ではないかと思っている。

令和6年の統合を目指すことになれば、安塚区や大島区の意見を取り入れていくことになるが、いろいろな問題が出てくると思う。中学校を閉校する際の式典をどうするか、跡地に石碑を建てるなどの意見も出てくると思われる。このほか、PTAや同窓会、後援会などの問題もある。浦川原小学校の場合、旧小学校の同窓会名簿等は、浦川原小学校が全て預かることとなり、新たに後援会といった形で発足した。こういった問題は、統合の委員会を発足させ、並行して進めてきたところであり、新設も編入もあまり変わらないのではないかと考えている。浦川原の将来を考えて、判断していただき、皆さんの意見をお聞かせいただきたい。

【小野委員】

私も新設が良いと思う。意見交換会や新聞報道にもあったとおり、子どもたちに対してアンケートを取った方が良いのではないかという意見がある。それについて、教育委員会から具体的な話はあったか。

【北澤正彦委員】

教育委員会からは、大浦安の中学生に統合に関する状況を分かってもらうことと、子どもたちが統合をどう思っているのかということ、今まで、はっきりした方向性を示していなかった。教育委員会としては躊躇^{ちゅうちよ}していた部分もあったようだが、今回、保護者から「実際に子どもたちがどう思っているか聞いても良いのではないか」という声があり、アンケートの実施について話があった。ただ、それをどのタイミングで実施するかといった具体的な話は出ていない。

【小野委員】

アンケートは、実施する見込みと解釈してよいか。

【藤田会長】

皆さんがどう思うか分からないが、これについては、やはり大人が決めることではないかと思っている。ただ、アンケートは実施しても良いと思う。

【小野委員】

実際に動くのは大人たちであるが、その中で、子どもたちがどう思っているのか、聞き取り調査をすることも大事なことではないかと考える。

【北澤正彦委員】

アンケートに関しては、安塚中学校のPTAの総意がどうなのか、「保護者にアンケートを取って見ないと一概には言えない」という話がPTAから出され、その流れで、「子どもたちにもアンケートを取ったらどうか」という話になった。教育委員会としては、まだ方向性が定まっていない中で、どうしたらよいか、逆に保護者へ聞く場面もあり、保護者からは、「中学生であれば、どう思っているのか聞いても良いのではないか」という話であった。

【藤田会長】

小学生と中学生では感じ方が違うかもしれないが、人数が少なく部活もできない、チームも作れないといったことは、本当に気の毒であり、早く統合して、将来の子どもたちの期待に沿うことが大人の仕事だと考える。

それでは、いろいろな意見が出ているが、浦川原区地域協議会としては、「新設統合」という意見で統一してよろしいか。

(会場内から「はい」の声)

それでは、大事なことであり、本日は全員出席しているため、「新設統合」に賛成の委員は挙手していただきたい。

(委員全員が挙手)

全員一致で「新設統合」ということで、次回の意見交換会では、北澤正彦委員から、浦川原区地域協議会では「新設統合」にまとまったということをお話しいただきたい。

【北澤正彦委員】

承知した。

【藤田会長】

続いて、「(2) 委員報告」に移る。Aグループ、Bグループに分かれて、自主的審議事項の検討を行っている。Aグループについては、本日、地域協議会終了後に集まることになっている。Bグループについては、4月26日に浦川原区の交通の現状と市の施策について交通政策課から木南副課長、佐野係長にお越しいただき、説明を受けた。議事録は五井野委員からまとめていただいております。今日は要点のみ報告をお願いします。

【五井野委員】

当日は、大きく分けて3点、市からの説明を受けながら話合いが行われた。

浦川原区における予約型乗り合いバス、デマンドバスの状況において、4ルート中3ルートが令和3年度末をもって廃止となり、それに至った経緯は皆さん御存じのとおり、1便当たりの利用者数が1人を下回り、基準を下回ったため廃止された。総合事務所から、その経緯の説明を受けながら、単に廃止するというのではなく、利用者一人一人に職員が聞き取り調査を実施した中で、代替手段を説明し、きめ細かく次のステップとしてどういった方法があるかといった内容を調査したとのことである。

続いて、交通政策課から補助制度について説明を受けた。互助による輸送、近所の助け合いによる輸送の2つが、市が策定する第2次総合公共交通計画に載っている。この補助制度について、互助による輸送を利用されている団体はあるが、近所の助け合いによる輸送の補助制度を受けている事例はないということであった。この補助制度は、利用状況などを踏まえながら、常にマイナーチェンジしていくといった考えであり、現場とかけ離れている制度となれば、現場の実態に合わせた制度に変えていくといった内容の説明であった。

続いて、今年度、安塚区と牧区で予定されている「予約型コミュニティバス」の実証運行の内容について説明いただいた。実証運行により、どういったニーズがあるのか、どう効率的に運用できるのか検証し、来年度の第2次公共交通計画に反映して、令和6年度以降に他の地域への展開を考えていくということであった。

総括的に利用者が1人を下回った時点で、公共と言われる交通がなくなる、廃止となることは理解できる。しかし、ニーズがゼロとなったわけではないため、浦川原独自の方法をどうしていくのかを、互助や助け合いによる輸送を含めながら、今後、継続協議していくという結果に至った。

【藤田会長】

今ほどの説明について、質問や意見があればお願いします。

質問がなければ、今ほど報告いただいたが、私はこのBグループのリーダーであるので、これまで北越急行や交通政策課からお聞きした話を基に、少し時間をいただいて、浦川原区の交通形態をどうしていけば良いか、私の方でまとめてみたいと思っている。この点について、Bグループの方々にもご承知いただき、たたき台として見ていただければと思っている。そのためには、三和区の活動内容や全国的にもいろいろな方策があり、最近では、富山方式と言われるものもある。単純にそれらと比較することはできないが、コンパクトシティをどのように構築できるのか、考えていきたい。

【藤田会長】

続いて、「(3)市からの報告」に移る。「地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の

地域協議会の取組等について」、事務局からの説明をお願いします。

【大橋次長】

(資料に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明について、質問や意見があればお願いします。

なければ、説明をいただいたということでよろしいか。

(会場内から「はい」の声)

9月までというのは、なかなか厳しい内容になっていると感じるが、その辺りの見解はどうなのか。

【大橋次長】

来年度予算で実施できるものや実施すべきものがあり、9月末までに出していただければ、来年度予算への計上を検討できるということである。

【藤田会長】

了解した。

それでは、ここで15分間の休憩とし、午後2時25分に再開する。

(休憩)

【藤田会長】

それでは、地域協議会を再開する。次第の「2 協議」の「②全体審査」に入る。事務局から集計結果の説明をお願いします。

【総務・地域振興グループ北澤班長】

6事業の集計結果について、報告させていただく。

ただ今お配りした「令和4年度浦川原区地域活動支援事業採点結果一覧」をご覧ください。これは、委員の皆さんから個別審査をしていただいた結果をまとめたものである。

「(1) 地域活動支援事業の目的」については、適合すると判断した人が○、適合しないと判断した人は×となり、それぞれの人数を集計している。なお、目的に適合しないとした人の意見を欄外に記載しているので、そちらも確認いただきたい。

続いて、「(2) 優先採択の方針との適合性」については、「地域自治区の採択方針の浦川原区が優先して採択する事業」に適合すると判断した人が○、適合しないと判断した人が×で、それぞれの人数を集計している。

「(3) 評価結果」については、採点票の「共通審査基準」の審査項目の合計値、平均値、最高値、最低値の集計である。合計値の順位は、各項目の合計点の高い事業から順位付けを

したもので、最も点数の高かった「うらがわら雪あかりフェスタ」が1位、最も点数の低かった「広報紙『夢だより』周知推進事業」が6位となっている。

最後に、「(4) 特記事項」については、採点票の「その他特記事項」に記載のあった内容を記載したもので、今後の協議の中で、付帯意見とする必要があるかどうかも含めて、全体審査の参考としていただきたい。

【藤田会長】

それでは全体審査に入る。

集計結果をご覧ください、皆さんから意見等を伺いながら全体を取りまとめていきたい。

【五井野委員】

「第13回浦川原和太鼓祭」に関して、私はこの法人の会長であり、発言は控えさせていただきます。また、審査の進め方について、順位の高いものから審議していくことも、一つの手段だと考えるが、いかがか。

【藤田会長】

皆さん、進め方についてそれでよろしいか。

(会場内から「はい」の声)

それでは、「うらがわら雪あかりフェスタ」について審査する。

特記事項には、「冬の大事なイベントなので、是非今後も続けてもらいたい」とある。

【村松副会長】

この特記事項を記載したのは私である。今年、大浦安を回ってみたが、浦川原区は本当に頑張っていると感じていて、少しずつ規模が大きくなってきている。また、冬のイベントとしては、これしかないと思っているため、残すべき事業として助成してあげたい。

【藤田会長】

要望に対して、満額採択ということでよいか。

(会場内から「はい」の声)

【藤田会長】

次に、「第13回浦川原和太鼓祭」について審査する。

【相澤委員】

入場料の徴収などの問題があると思うが、来年度から地域活動支援事業が廃止となるため、「金銭的な部分で、開催できなくなるかもしれない」という発言があった。今のうちから、補助が受けられるように総合事務所と相談していただきながら、来年度以降も是非続けていただきたいと思っている。

【藤田会長】

以前から申し上げているとおり、事業を実施、継続するにはお金がかかってくるものであるが、このイベントについては、ボランティア的な性質の部分もあり、一概に入場料を徴収すれば良いとは言えない部分もあると考える。我々が考えている以上の金額の機材等も必要になると考えられ、これについては、先ほど大橋次長から説明があったように、地域協議会においても、今後どのように予算化していくか、責任ある審議をしていかなければならないと思っている。また、今まで活動してこられた方々の苦勞もあることから、地域の皆さんの意見等もお聞きし、大事にしていかなければならないと思っている。

【北澤正彦委員】

自主的審議事項の検討をしている中で、テーマの一つとして提案させていただいたが、月影雅楽が気になっている。また、和太鼓や飯室神楽など、浦川原の大切な文化を残していかなければならない。もちろん、虫川城跡などの文化財の保存も重要なテーマであると思っている。本日、この会議の後にAグループが集まるので、この問題をテーマとして挙げて検討していきたいと思っている。

浦川原和太鼓祭については、相澤委員と同様、これだけ支持されている団体であり、今後とも頑張ってください、更なる発展をしてもらいたいと願っている。

【藤田会長】

激励の言葉も出ているが、他にないか。

なければ、「第13回浦川原和太鼓祭」について、満額採択ということでよいか。

(会場内から「はい」の声)

【藤田会長】

次に、「『和山・観音堂』トレッキングコース整備促進事業」について審査する。

【北澤正彦委員】

残念ながら、この地域活動支援事業の採択に当たって、減額はあるが、増額はできない。というのは、パンフレットの再版で、1,000部では少ないのではないかと感じている。せめて、2,000部や3,000部に増やしても良かったのではないかと思う。私の子どもが参加した際にパンフレットを1部ずつもらって帰ってきたことがあり、すごいと思って見ていた。そういったことも一つのPRであり、1,000部はあつという間だと思うので、もう少し増やした方が良かったのではないかと思ったところである。

是非、良い形で整備し、どんどんPRしていただきたいと思っている。子どもたちも、月影の郷やこのトレッキングコースへ行ってくると、大変喜んでいて、事業として続けてもら

いたいと思っている。

【藤田会長】

場所によっては、非常に険しい場所もあるが、登り口の1キロメートルくらいの所は、非常に登りやすくなっている。高齢者や小さい子どもたちにも、全てのコースを回らなくてもいいように、コースをショートカットできる所を1か所整備した。自然観察することもできるので、今年もそういった場所を作っていきたいと思っている。したがって、パンフレットについても、順次改定していく予定である。ご意見はありがたく受け止め、今後の参考とさせていただきますこととする。

他に意見がなければ、この提案事業も満額採択ということでよいか。

(会場内から「はい」の声)

【藤田会長】

次に、「虫川の観光資源を活用した観光PR事業」について審査する。

特記事項として3点ほどあるが、他に意見等ないか。私は、この提案が出てきてほっとしているところであり、非常に良いことだと思っている。

【池田副会長】

私は、地元が虫川町内であり、実際に道を聞かれたことも3回ほどある。

上杉謙信がブームとなって久しいが、狼煙^{のろし}上げなどに関心が強い方もいて、この狼煙^{のろし}上げをしていた山城、城跡を巡っている方が非常に多くいるので、今回提案していただいてよかったと感じている。

【相澤委員】

特記事項に、「史跡であるので、市に対してアプローチを」とあり、確かにそのとおりであるが、市へ訴えても、すぐに修繕等をしてくれるとも思えない。今回の提案では、腐蝕しにくいものということであり、和山・観音堂トレッキングコースの整備事業と同じ考え方で良いのではないかと考える。

【北澤正彦委員】

その特記事項を記入したのは私であり、プレゼンの時に質問をさせていただいた。虫川城跡だけではなく、上越の史跡と言われるものの管理は誰が行っているのか。何かあった場合に、どこがお金を出して、何をしてくれるのか。そういった部分が全く分からないのに、上越市の史跡で管理番号が何番ということになっている。

【総務・地域振興グループ北澤班長】

以前、文化財を担当していたことがあるので、今の質問についてお答えさせていただく。

特記事項に、「文化財に関しては、市が管理すべき」と記載されているが、文化財の管理は、基本的に所有者が行うこととなっている。例えば、県指定の十一面観音立像であっても、管理するのは所有者であり、虫川城跡であれば、土地の所有者が管理することになる。これが原則である。市や県、国は、所有者の同意を得て指定するが、管理は所有者ということである。ただ、虫川の大スギや県指定の十一面観音立像の維持管理や修繕には多くのお金がかかってくるため、中には通常から予算計上されているものもある。これは、所有者から要望を受けて、市が補助事業として予算計上することになるが、補助事業なので、市が実施するのではなく、所有者が主体となって、市の補助金を受けて修繕等をしているものである。

【北澤正彦委員】

やっと理解できた。それであれば、何度もしつこくお願いしていけば、どこかで修繕等ができる可能性も出てくると解釈させていただく。

【藤田会長】

他に意見がなければ、この事業についても満額採択ということでよいか。

(会場内から「はい」の声)

【藤田会長】

次に、「宿泊体験交流施設月影の郷イベント事業」について審査する。

これについては、たくさんの特記事項が記載されているので、このことについて協議をお願いします。

【相澤委員】

私の妻が月影出身であり、月影の郷がオープンしてから10年ほどは非常に活気があり、地元の方々からも協力していただき、宿泊のお世話や、いろいろな仕事を手伝っていた。ただ、20年が経ち、地元の人たちも一人、また一人と抜けてしまって、同時に月影の郷も低迷した時期もあった。今、ようやく専門的に運営してくれる方々が居て、うまく世代交代がされたと思っているが、以前のように地域を含めて活気があるわけではないと感じている。月影の郷というあれだけの施設があるので、内容について疑問が出ていた部分もあったが、月影の郷をもう一度盛り上げるためにも、カンフル剂的に実施しても良いのではないかと思う。大きな金額ではあるが、満額としても良いのではないか。

【村松副会長】

大規模なイベントであり、支配人である横尾さんからは、その意気込みが感じられた。多くの特記事項が記載されている中で、「地域の魅力が発信されず、地域の活力向上にはつながらない」と記入された方がいるが、私は、今回この事業を実施することで、運営委員会も

地域活性化のために動いていこうと信じている。したがって、大きな金額ではあるが、この事業を月影の郷に託したいと思う。

【池田副会長】

コロナの影響で大変なのは月影の郷だけではないと思うが、行政としても、もう少し支援することができないものかと思っている。月影の郷を訪れた人が魅力を認識し、それを発信してもらえれば、お客さんからもっと来ていただける。この事業が、プラスの循環になれば良いのではないかと思っている。

【藤田会長】

佐藤所長は、月影の郷に力を入れていこうと言われていた。横尾さんを始め、運営委員会の方々から努力していただいているところであるが、よく言われるのは、「後継者がいない」ということである。地域おこし協力隊についても、これまで何人も面接されてきたが、採用には至っていない。地域協議会として、この事業母体について検討していく方向性が必要ではないかと思っている。

また、市が実施している指定管理制度についても関心を持つこととし、いろいろな規制があるが、こういった部分も含めて、地域協議会において検討が必要ではないかと思っている。

今回の提案は、いろいろな部分で初めてのことが多くあるが、満額で良いのではないかと思っている。是非頑張ってくださいと思う。

【北澤正彦委員】

月影の郷に関しては、いつも応援しており、良い形になることを望んでいるところであるが、今回の提案に関して、最初に見たときに、月影の郷運営委員会が提案して実施していくのかと思っていた。しかし、お話を聞くと、企画や運営等については、クラフト・スクエアが中心となり実施されるようである。この団体は昨年、上教大の近くで同じようなイベントを開催していて、入場料も今回の半分で、中学生以下は無料となっていたので、今回の内容について少し腑に落ちない部分がある。内容的に多少の違いはあっても、基本的に同じようなイベントだと考える。非常にうがった見方をすれば、「月影の郷で実施するから、地域活動支援事業を使ってほしい」というようなことを団体から言われたのではないかと疑ってしまう。

資料にあるチラシも、私の子どもが学校から早々にもらってきた。今から1か月以上前である。しかし、今日のプレゼンテーションで話をお聞きすると、ますます腑に落ちない点が出てきた。応援したいし、月影の郷には頑張ってくださいと思っているが、なぜか引っかかる部分がある。先ほど横尾さんに経緯をお聞きしたかったのだが、何かお聞きしていな

いか。

【藤田会長】

一部であるが、お聞きしている。

簡単に申し上げますと、月影の郷運営委員会では、この企画を実施するだけのスタッフが不足しているということである。灯の回廊など、何かイベントを実施するには、外部の手を借りなければ、実施することができないという事情がある。

各所に自前のスタッフを配置することができれば、言われるように価格の面などで、ある程度は抑えられると考えられるが、全て外部の力を借りなければならないことになり、この点について、月影の郷運営委員会が苦しんでいることは事実である。北澤正彦委員が指摘されたような部分は、少なからずあるのではないかと考えられる。

【北澤正彦委員】

プレゼンの際に、そういった説明がなかったため、藤田会長からお話をお聞きして、できる部分、できない部分があることが分かった。

【春日委員】

今回の事業を起爆剤として実施されるのは良いと思うが、今後につなげる意味でも、今回のイベントでは、勉強や運営のやり方を学ぶことを兼ねて、地元のスタッフ等を募集し、どれだけ集まるか分からないが、是非、運営のメンバーとして加えていただきたいと考える。

【藤田会長】

私の立場で発言するのは心苦しいが、どなたからも協力していただきたい状況であり、非常に苦しんでいる部分であると感じている。

【春日委員】

スタッフの募集に関しては、どこからもお聞きしていないため、どのような形で募集しているのか。協力したいと思わせるような宣伝、募集の仕方が必要ではないかと考える。

【藤田会長】

全国的に見ても、閉校された学校の利活用として有数の成功例であり、これを失敗に終わらせることのないように続けていきたいという思いがある。

今回、この事業も満額採択ということでよいか。

【五井野委員】

私は、「地域活動支援事業の目的に合致」の項目に×を付けさせていただいた。この地域活動支援事業の目的は、地域の課題解決、地域の活力向上とうたわれているが、この事業を月影の郷で開催する必要性、必然性が私には感じられなかった。先ほどお聴きしたが、明確

な答えは返ってこなかった。

これが、月影の郷運営委員会の自発的な企画運営であれば、もろ手を挙げて、補助金額内の額をいくらでもつけて良いと思っている。ただ、言い方は悪いが、個人的な考えの隠れみのかとして月影の郷があるのではないかと、思えて仕方がない。企画は外部から持ってきて、それに乗ったとしても、月影の郷運営委員会が実施していくといった内容であれば良いと思うが、そうではなく、全ておかしいと思っている。

また、特記事項の「浦川原で実施する必要性が感じられない」と記入したのは私である。先ほど藤田会長が言われたとおり、廃校となった校舎利用の成功例として、全国に誇れることだと思っている。そこに、よく分からない無機質なイベントを実施することによって、逆に月影の郷のブランド力やブランド価値が落ちてしまうことになるのではないかと危惧している。芝生でのバブルサッカーは、ぶつかっても痛くないし、確かに楽しいと思う。例えば、これを購入し、毎週末に誰でも借りることができて、バブルサッカーを楽しめる月影の郷にしていくということであれば良いと思うが、ただの単発のイベントに55万円を使うというのは、必要性が感じられない。

この全体審査の中で満額採択となれば、私も納得するが、よく考えていただきたいのは、このイベントを浦川原で実施する必要があるのかどうかの説明がなかったこと。菖蒲高原や金谷山でも同じ内容でできると思う。そして、プラネタリウムを借りるだけで、25万円かかっている。月影の郷のあれだけ良い環境がある中で、芝生に寝転んで、清里の星のふるさと館から講師を招いて、星座の説明を受けるといったことを通年で実施するのであれば、非常に良いことだと思うが、なぜ、わざわざプラネタリウムを持ってこなければならないのか理解できない。したがって、経費をかけずに、月影の郷をもっと良くしていくための知恵を出し合えばできることであり、そこに地域協議会が加わっていくことは、大いにやっていかなければならないことだと感じている。

スタッフが不足していることとイベントの開催は、分けて考えなければならないと思っている。私は、満額採択には反対である。

【藤田会長】

提案者には、先行着手した場合でも、減額して採択することがあると伝えてある。具体的にどこを削って採択するのか、ご意見があったらお聞きしたい。五井野委員いかがか。

【五井野委員】

具体的に削るとなると、私は遊具全てが必要ないと考える。イベント自体は既に周知しているものであり、実施していかなければならないと思っている。また、減額されても実施す

と言われていたため、イベント全てを不採択にすることはできないと考える。具体的に言えば、イベント遊具代の163万200円全てを削るべきだと思う。

【池田副会長】

五井野委員のお話で、「月影の郷で、このイベントを開催する意味が分からない」ということであったが、これだけのイベントの企画は、ベテランの運営委員でも荷が重すぎるのではないかと考える。はっきり言って、このようなイベントはできないと思うが、月影の郷にとっては、今までに例のない内容のイベントに皆さんから来ていただいて、月影の郷の魅力を再認識してもらうことが重要だと思う。確かに、月影の郷で山登りや木を切る体験はないが、私は、このイベントを起爆剤として応援してあげたいと思う。

【相澤委員】

確かに、五井野委員の言われることについて、どうしたらよいかの判断が付きかねるが、イベント自体は実施させてあげたい。しかし、提案の内容を削るということであれば、どこをどうすればよいか。五井野委員や北澤正彦委員から、何か良い知恵があれば、お伺いしたいと思うがいかがか。何が必要で、何が不要なのか、よく分からないまま、私も今までの沈滞的なムードを何とかしたいという思いから発言してしまった部分もあって申し訳なく思うが、もう少し意見を伺って、決定したいと考える。

【赤川委員】

五井野委員が言われることも分かるが、相澤委員が言われるように、起爆剤として月影の郷に人を呼び込んでいただいて、是非、成功させたい。

浦川原区の配分額に残額が出ていることもあり、まずは実施していただいて、どれだけの成果が出るのか。例えば、バブルサッカーもどのくらいの利用があるのか、結果を検証していただいて、来年度以降も実施するか分からないが、もし開催する場合には、検証した結果を参考にさせていただきたいと思う。私は、起爆剤としての事業ということで、満額採択でよいと思う。

【春日委員】

私も基本的には賛成であるが、どうしてもリース代がネックとなっている。五井野委員の言われるように、バブルサッカーなどはリースではなく、購入する方向に予算を割いた方がよいのではないかと考える。

また、プラネタリウムについても、月影の郷で実施するのに、なぜ、空の星を見ないのかと思ってしまう。したがって、プラネタリウムは不要であると考えます。

【杉田委員】

私もリース代が高いのではないかと考えている。高額な備品を購入するよりも、リースの方が安く済むことは理解できるが、それでもリース代が高額なのではないかと思う。しかし、今後のためということであれば、バブルサッカーのリース代と同じ55万円では購入できないと思うが、プラネタリウムなどをカットして、備品の購入を検討してもらいたい。

イベントを開催するに当たって、スタッフを育てていかなければならないということは、大きな課題であると感じている。月影の郷だけではなく、我々地域協議会がいろいろなことを実施していく場合においても、地域で担う人がいるのか、これが一番の課題だと思っている。

確かに、「起爆剤として、まず実施してみる」という意見は理解できるが、私は再検討していただくことを提案する。

【五井野委員】

私も杉田委員の意見に賛成である。ただ、再考している時間はないのではないかと思う。2次募集があれば、持ち帰って再募集していただければよいと思うが、今日決めなければならない。先ほど、北澤正彦委員のお子さんがチラシを持ってきたと言われたが、私の子どもも中学生で、チラシを持ち帰ってきた。そうすると、このチラシを見て、前売り券を買う子どもたちがいることになる。そうした時に、大人の都合によって、子どもたちの楽しみを削ぐわけにはいかないため、チラシに書かれている内容は、カットできないと思っている。バブルサッカーとシャボン玉パフォーマンス、光る絵本展は、チラシに記載されている。プラネタリウムとふわふわ遊具については記載がないため、カットしてもチラシ上問題はないと思う。

また、記録編集費のホームページ制作費5万5,000円については、既にホームページが立ち上がっているため、百歩譲って仕方がないと思うが、記録写真・ビデオ撮影・編集の13万8,600円については、本当に必要な経費なのか。イベント上必要であれば、自分たちで賄ってもらえれば良いのではないかと考える。

したがって、具体的には、プラネタリウムとふわふわ遊具、記録写真・ビデオ撮影・編集の費用をカットしても、イベントは成り立つのではないかと考える。

【北澤正彦委員】

「チラシに載っていないものは、カットして良いのでは」と言われたが、3週間ほど前にこのチラシが学校で配布され、正直、私の子どもは非常に楽しみにしている。ここで判断を誤って、子どもたちに悲しい思いはさせたくないと思っている。

いろいろな状況を踏まえて、最低限削るところは削って、子どもたちが楽しみにしているイベントの部分は残していただきたいと、個人的にお願いしたい。

【藤田会長】

いろいろな意見が出されたが、ここで可否の採決を取りたい。五井野委員が指摘されていた「記録写真・ビデオ撮影・編集の13万8,600円については、工夫すれば何とかなるのではないか」という意見であった。また、北澤正彦委員が言われるように「チラシは全市の学校に配布されているため、この地域協議会の場で、チラシに記載された提案内容をカットしてもよいのか」ということであった。

それでは、記録写真・ビデオ撮影・編集の13万8,600円を減額するか、満額採択とするか、ご意見を伺いたい。

【村松副会長】

十数万円を削るより、満額採択として来年度以降も継続していくように、今回委員の皆さんから出た意見を検討しながらやっていただきたいと思う。

【藤田会長】

ここで決を採らせていただきたい。

申請どおり満額を認めることに賛成の方は、挙手していただきたい。

(3人の委員が挙手)

必要ないと思われるものをカットして採択することに賛成の方は、挙手していただきたい。

(8人の委員が挙手)

減額して採択するとした人が多数のため、カットする部分は、五井野委員の言われた部分だけでよいか。

【五井野委員】

私は、記録写真・ビデオ撮影・編集のほかに、プラネタリウムとふわふわ遊具もカットしてはどうかと申し上げたが、これらを楽しみにしている子どもたちもいるということで、入れてあげたいと考える。しかし、ホームページに関しては、必要なかと思う部分もあり、子どもたちは、あまり見ないと思われる。

先ほど、藤田会長も言われたように、「先行着手していても減額して採択することがある」ということをお伝えしてあるので、減額される可能性があることを承知していることから、記録編集費の19万3,600円を削ることでいかがか。

【藤田会長】

それでは、記録編集費の19万3,600円を減額して採択するというのでよいか。

(会場内から「賛成」の声)

賛成多数につき、補助希望額のうち19万3,600円を減額して採択することとする。

【藤田以会長】

次に、「広報紙『夢だより』周知推進事業」について審査する。

【春日委員】

事業の目的に合致しないと×を付けた中の1人は私である。どう考えても、住民が自主的、主体的に取り組む事業とは言えないのではないか。他の委員の意見をお聞きしたい。

【北澤正彦委員】

事業の目的に合致しない理由の4つについて、このとおりだと思う。

提案者から「NPOの周知を促進して会員を増やすため」と話があったが、これは別の話だと思っている。

一昨年に「夢だより」発行のための印刷機の導入を提案され、購入している。その活用において何か不具合があり、また、住民の方々から「フルカラーでなければ見づらい」などの苦情が出ているのであれば仕方がないと思うが、「白黒で困っているといった話はない」ということで、これは製作者側の意見でしかなく、住民による自主的、主体的な事業とはいえないと感じている。

印刷機の利用目的について十分考えていただき、5年、10年と使用して、カラーでなければだめだということであれば良いと思う。そういった努力をしていただいている話ではないかと思っている。

【五井野委員】

私も×を付けた委員の1人であり、「発行形態の変更が課題とは言えない。単色刷りをカラー刷りの外注にすることで、地域の活力向上につながるとは言えない。」と意見を出させていただいた。

地域の課題解決と地域の活力向上が明確にうたわれている中で、現在発行している「夢だより」が、単色刷りでは不具合があり、カラー刷りにすることで、期待された効果があれば良いと思うが、単色刷りでも特段問題はないと思う。

私としては、例えば年間12か月のうち、4月であれば桜色の紙を使い、5月・6月であれば藤色を使うなどして単色刷りにする。文字は黒であるが、その月によって、用紙の色を変えることにより、逆に目立つのではないかと考える。カラー刷り用のコート紙であれば、何かチラシのように見えてしまって、あまり目に付かないのではないかと考える。その辺りの考察が少し足りないし、説明がなかったということで、地域活動支援事業の目的に適合し

ないとさせていただいた。

【北澤正彦委員】

一つの考え方として、今年、うらがわらまつりが開催された場合、その様子をきれいなカラー印刷で写真もたくさん掲載すれば、見る人からも喜ばれるのではないか。1回当たりの印刷費のコストを算出し、この月とこの月は、写真をたくさん掲載して、皆さんに知っていただきたい、PRしたいという、月を限定した形で金額を採択すればよいのではないかと考えるがいかがか。

【池田副会長】

「『夢だより』を発行するために印刷機を購入したのに、少しおかしいのではないか」ということや、「地域住民の皆さんが主体的に取り組む事業に適合しない」という意見もあるが、NPOの事務局の立場である私からすれば、見解の相違ということになってしまう。

一昨年に印刷機を購入したが、この購入の際も、地域の住民の皆さんが参画できるかどうかという部分については、その採択の際に皆さんから審議していただいて、承認していただいた経緯がある。

【杉田委員】

「前回、満額採択されたから、今回も採択をしてほしい」ということはいかかなものかと思う。確かに前は満額採択されたが、この時も点数が一番低かったと記憶している。過去を振り返っても仕方ないが、私は満額採択には反対である。「カラー印刷の方が安い」と言われたが、印刷機のインク代や印刷可能枚数などのコストが分かる資料があれば、少しは検討しても良いと思うが、ただ、安いからと言われても賛成しかねる部分がある。正直、私としては、不採択にしても良いと思っている。

【相澤委員】

外注に出すことで、安く印刷できることは承知しているが、印刷機購入の際に「夢だより」の印刷という名目で購入されたのに、外注するという部分については、私も納得できない。印刷機を使うより外注した方が安いからという短絡的な理由で提案されたように見えてしまう。提案内容について、もう少し「こんな仕掛けをしたいからこうだ」という理由がない限り、ただ、「外注した方が安いから」という理由だけでは通らないだろうと考える。少し高くつくかもしれないが、印刷機を使っていたらいいと思う。

【藤田会長】

印刷機を購入後、実際にカラー印刷したこともある。ところが1枚当たりの単価が非常に高い。現在、財政が安定してきているとはいえ、内情を見ると、まだまだ努力をしていかな

ければ、従事している職員の給料も出せない状況である。地域住民へのコピー代行サービスとしてカラーコピーを実施しているが、全戸配布するために1,000枚ほどを両面印刷するとすると、金額が3倍ほどになってしまう。これでは、皆さんに喜ばれていたとしても、財政負担が大きくなってしまう。

また、配布物にしても、皆さんのように関心のある方ばかりだと良いが、カラー印刷と白黒印刷では、目の留まりやすさが違ってくる。特に地域支え合い事業などの状況として、高齢者の方々の写真をカラーで載せると、非常に喜ばれる。参加者についても、急激に増えているわけではないが、「夢だより」を見て参加したという事例もある。

コストの見込みが甘かったのではないかという指摘についても、受け止めているところであるが、今回は満額採択していただけたらと思っている。

【相澤委員】

購入された印刷機のカラー印刷については、一般の方々に十分利用してもらうことを大前提として、満額採択ということが落とすどころなのかとを感じるが。

【池田副会長】

今ほど、藤田会長からコストが3倍といった話も出ていたが、本当は7倍・8倍ほどかかっている。これが非常にネックとなったことは事実である。

【村松副会長】

私も、町内会の資料等のコピーでフル活用させていただいている。また、他の住民の方々の利用もそれなりに見込まれているところである。

池田副会長が言われたように、自前印刷と外注では、コストで7・8倍の差が出るということであり、また、カラー印刷とすることにより、もっと目に留まりやすくなり、会員数を増やしたいといった思いがある。皆さんのご理解をいただきたい。

【池田副会長】

「購入した印刷機をあまり活用していない」といった意見があるが、年間で約1万枚以上の実績があり、皆さんから活用していただいている。

【藤田会長】

「夢だより」の印刷をするために購入したという部分において、ご指摘を受けているわけであり、その部分については、素直に認めなければならないと思う。

【北澤正彦委員】

今、藤田会長が言われたとおりであり、池田副会長の言われた「市民の皆さんに使ってもらう」ということについても、あの時コピー機を購入する理由の一つであった。しかし、大

前提にあるのは「夢だより」の発行であって、その時の審議において、不採択とした委員もいた。最終的に満額採択されたが、あの時から少なからず心に引っかかりを持っていた委員がいたということである。私もその一人である。あの時になぜと思いつつも、採択したわけであるが、それが2年も経たずに、今回の提案である。本当に切なくなってくる。

ただ、私としては全額カットではなく、先ほども言わせていただいたが、写真等をたくさん載せて皆さんに喜んでもらうというときはカラーで、それ以外では、それなりの努力をしていただきたいという提案をさせていただいた。

【藤田会長】

皆さんの意見を踏まえて採決を採らせていただくが、採点票で×とした方が4人、○とした方が8人おられたが、26万円の希望額に対して、満額採択することに賛成の方は挙手をお願いします。

(5人の委員が挙手)

では、反対の方は挙手をお願いします。

(6人の委員が挙手)

反対の方が多いため、採択金額をどうするか決めていきたい。

【相澤委員】

発行回数は何回か。

【藤田会長】

月に1回の発行である。

【春日委員】

4月、5月の発行は終了していると思うが、残りの10か月分ということか。

【池田副会長】

見積もりは11回分であるが、残りの発行回数は10回となっている。

【杉田委員】

10回のうち、カラー印刷の回数は何回を予定しているのか。

【池田副会長】

減額されても、全てカラーで印刷するつもりである。

【春日委員】

それでは、いくりにすればよいのか。

【藤田会長】

単純計算で良いのではないか。既に発行された分もあるが、11か月で割って1か月分が

いくらになるのか。

【相澤委員】

通常、補助事業は、約半額、最大7割というところではないかと考える。その範囲内で決めたらどうか。

【総務・地域振興グループ北澤班長】

事務局からお伝えする。印刷費は11か月分の見積もりとなっており、1回当たり2万4,200円となる。

【北澤正彦委員】

見積もりの単価は総印刷枚数で算出されていて、その辺について問題はないのか。

【総務・地域振興グループ北澤班長】

単価が変わる可能性がある。

【池田副会長】

既に1回分発行していて、減額して採択ということであり、提案金額の5割、7割という相澤委員の意見であったが、我々は全てカラー印刷で発行していくこととしているため、提案金額の何回分の金額ということではなく、単純に提案金額の何割分としていただいても結構である。

【杉田委員】

単純に半額の13万円かどうか。

【藤田会長】

それでは、50パーセントの金額、13万円ということでよろしいか。

【春日委員】

やはり、1回2万4,200円の5回分とした方が良いのではないかなと思うが。

【総務・地域振興グループ北澤班長】

北澤正彦委員のお話のように、単価が合計印刷枚数で算出されており、11回で割り戻すと1回分が2万4,200円となるが、11回分ではなく5回分の発行というように、印刷枚数が減った場合に単価が上がる可能性がある。

【北澤正彦委員】

やはり申請金額の何パーセントとした方が良いと考える。自助努力で、全てカラー印刷されるということで、申請金額の50パーセントが良いのではないか。

【藤田会長】

それでは、50パーセントの13万円ということで採択する。

以上で、全6件の審査を終了する。

【総務・地域振興グループ北澤班長】

それでは、採択額の確認をさせていただきます。

「第13回浦川原和太鼓祭」：67万円

「虫川の観光資源を活用した観光PR事業」：33万3,000円

「うらがわら雪あかりフェスタ」：16万5,000円

「広報紙『夢だより』周知推進事業」：13万円

「『和山・観音堂』トレッキングコース整備促進事業」：85万4,000円

「宿泊体験交流施設月影の郷イベント事業」：239万3,000円

採択額の合計は454万5,000円である。配分残額は85万5,000円となるが、追加募集は行わない。

付帯意見の有無や減額採択された2つの事業について、減額された理由をまとめていただきたい。

【藤田会長】

「広報紙『夢だより』周知推進事業」については、以前購入した印刷機が十分活用されていないということである。

「宿泊体験交流施設月影の郷イベント事業」については、録画・編集は自己負担で実施してもらうこととして、この部分を減額するということである。

【総務・地域振興グループ北澤班長】

了解した。

【藤田会長】

これで地域活動支援事業の審査を終了する。

「2 協議」の「(2) 自主的審議事項の検討」については、「委員報告」でBグループの状況を説明していただいた。また、Aグループは、この協議会終了後に参集されるということで、了解いただきたい。

【藤田会長】

次に、「4 その他」として、皆さんから何かあるか。

(会場内から「なし」の声)

【藤田会長】

次に、「5 次回の会議日程」について、次回は6月28日火曜日、午後6時30分から、ここ浦川原コミュニティプラザ市民活動室4・5で行う。

以上で、第2回浦川原区地域協議会を閉会する。

9 問合せ先

浦川原区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 025-599-2301 (内線 305)

E-mail : uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。